

2019 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	NARA Will(奈良県立医科大学学生災害ボランティアグループ)
活動テーマ	「2019 学生災害ボランティアバス復興支援活動」 医療系学生による福島県内での災害ボランティア活動



福島県立医科大学での災害医療セミナー受講
KJ法を用いて意見交換する様子



帰還困難区域(双葉町、大熊町)の視察
国道 6 号線の車窓より



社会福祉施設での傾聴活動
夏祭りの催しものを実施している様子



気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館見学
津波被害をそのまま残した気仙沼向洋高校旧校舎内

【目的】福島県内での学生災害ボランティア活動を通し、被災者の心に寄り添い、被災者・被災地に貢献する。被災地に赴いたことのない学生に被災地の復興・復旧が遅れている現状を認識してもらい、今後の被災地における支援活動、あるいは関西でもできる被災地支援活動につなげる。

【実施方法、内容】2019 年 8 月に和歌山県立医科大学の学生と合同で 2019 学生災害ボランティアバス復興支援活動を実施した。活動では、福島県立医科大学での災害医療セミナー受講、帰還困難区域・旧避難指示解除区域の視察、南相馬市立総合病院院長及川友好医師の講義の聴講、福祉施設での傾聴活動、震災遺構・伝承館の見学等を行った。

福祉施設での活動では、傾聴活動のほか、血圧測定、入浴介助、アロママッサージ、体を使ったじゃんけん大会や、夏祭りを実施した。お話をする中で、震災で家族と離れて暮らさなければならない現状など辛い現実を聞くこともあった。

被災地の視察では、今なお帰還困難区域となっている双葉町、大熊町の様子を国道 6 号線の車窓から視察した。参加者には震災当時の様子やここ 2、3 年の様子を説明し、違いや変わらない点について考えてもらった。また、医療系学生として南相馬市立総合病院院長 及川友好医師、気仙沼市立病院脳神経外科部長、宮城県災害医療コーディネーター 成田徳雄医師による災害医療、震災が地域医療にもたらした影響についての講義を聴講した。

【活動成果】福祉施設での活動を通じて被災者に対する精神的支援を行うことができた。レクリエーション等の実施により短い時間ではあったが楽しいひとときを過ごしてもらうことができた。また、毎年訪問し、今後も支援を行う意思を示すことができた。

将来医療従事者となる学生にとって、自分に何が不足していてこれから何を学ばなければならないかを感じるきっかけとなった。